

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●早稲田・スポーツ科学部

課題文は一見難しそうだが、論じられている内容そのものは、それほどわかりにくいものではない。簡単にまとめると、次のようになる。

「スポーツは、集団的一体感を強める働きをするため、『われわれ集団』と『かれら集団』の形成に役立ってきた。国際的なレベルでは、それがオリンピックなどにおける、国家の代理戦争としての平和的な競争を可能にした。だが、近年、そうしたスポーツの国家的な性格が強まってきたため、スポーツ本来の遊びの要素が破壊され、スポーツが友好的人間関係を作る手段ではなくなっている」

つまり、筆者は、スポーツと国家の結びつきが強くなってきている傾向を批判しているわけだ。そうした主張が正しいかどうかを問題提起すればよい。

イエス・ノー、どちらの答えも可能だが、どちらかと言えば、課題文に賛成する立場のほうが書きやすい。「スポーツは本来、身体活動や遊戯として楽しむべきもの。国家の目的のために行なうべきではない」「スポーツが国家との結びつきを強めると、勝利至上主義になって、誰もが気軽に楽しめるものではなくなってしまう」「スポーツが国家の目的に奉仕するようになると、オリンピックなどの本来の目的である、スポーツを通じた国際交流が困難になる」など、「スポーツ」の本質の定義に応じて様々な論が可能だろう。

ノーで答えるとするならば、「スポーツは国を一つにまとめ、国民意識を高める力がある。実際の戦争などにつながるかぎり、スポーツが国家と結びつくのは決して悪いことではない」「国家と結びついてこそ、純粋に競技としての強化が可能になる。スポーツがこれ以上商業主義と結びついてショー化するほうが危険」などが考えられる。

テーマも出題形式もきわめてオーソドックスで、しっかりと準備をしてきた受験生にとっては取り組みやすい課題だったはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>